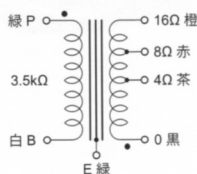


タムラ F913

オープン価格(実勢¥17,000前後)

プロフィール

業務用トランスの老舗タムラ製作所の新設計トランス。1次側は3.5kΩのみ、2次側は4、8、16Ωがタップで選べる。許容電流は80mAで出力は8Wとやや小さい。1次インダクタンスが21Hと大きく、低域25Hzから高域は90kHzまで伸びなだからで素直な減衰特性となっており、直熱3極管と組み合わせると本領を発揮するタイプ。タムラらしいダーク・グレー色の角型ケース入りで長さ200mmのリード線タイプ。(岡田)



トランス接続図



新設計トランスならではの低損失設計。 十分な帯域感で鮮度の高い音が溢れ出す

新音が溢れるように出てきます。それはこのトランスの挿入損失が小さいからでしょう。新製品で詳細は知らなかったのですが、音を聴いて驚きました。いいトランスですね。

岡田 損失が少なく、よく通る音のトランスです。新設計のトランスなので十分な帯域を持っていますが、中域を中心とする傾向で使いやすいですね。

高津 まさにエネルギーギツシユ。エネルギーが詰まっている感じで、溢れ出てくるように、活気があって鮮度が高い。しかも線が太い。骨格は太いのですがゴリゴリしているわけではなく、筋肉がありながらまろやか。真空管アンプらしい鳴り方を気持ちよく聴かせます。新「ヘレン・メリル」はサウンドがとももフレッツシユ。歌もバンド演奏も生々しく、しかもスケール感もある。「ビートルズ」は、聴いた音量も大きいのですが、迫力満点で聴き応えがあり、しかもまだまだ余裕があるように感じます。「春の祭典」も見事な再現です。ゲルギエフの演奏はあらゆる面で凄いと思うのですが、それがここで再現されました。大太鼓の音にも金管楽器の咆哮にも圧倒されます。

岡田 「ヘレン・メリル」では各楽器を細かく聴くというより、全体としての

熱気や雰囲気やうまく出します。損失が少ないようでも音がよく通り、シンブルな構成のアンプによく合う素直な特性です。「ビートルズ」でも心地よい迫力を感じさせる、とても良い再生です。「春の祭典」は、個々の音というよりも独特のうねり、この音楽ならではの独特の雰囲気までもうまく再現できました。

高津 ヘレン・メリルの音像が2本のスピーカーの間にフワッと立ち上がる、この部分はここまでは聴けません。音像は少し太いけれどぼけているのではなく、音像自体に丸味や奥行きがある生々しい鳴らし方。高域の伸びがもう少しあるとヴォーカルの子音やシンバルがさらに滑らかに伸びてきそうです。「ビートルズ」はエネルギーギツシユでパワフル。音圧で攻めてくるような迫力、ビートルズらしさの新しい発見があり、好ましく聴きました。ヴォーカルの肉質感をしっかりと出します。「春の祭典」もスケールが大きくダイナミックで、ある種のしなやかさ、円味もある。ブラスは鋭いエネルギーを飛ばしてくるだけではなく、金属の厚みを感じさせる質感を上手に出す。そういう、ひとつステップが上がったような良さを持つています。